

〔科目名〕 プレゼンテーション	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕 アカデミック・コモンベシックス
〔担当者〕 植田 栄子 Ueda Teruko	〔オフィス・アワー〕 時間: 初回授業で紹介 場所: 607 研究室	〔授業の方法〕 アクティブ・ラーニング (相互学習方式)、講義
〔科目の概要〕 プレゼンテーションに必要な理論と実践を学び、最終的に無理なく必ず受講生全員のプレゼン力 UP をめざす。 主として以下の内容: 1) プレゼンテーションに必要な準備(レジュメの作り方とパワーポイントの作り方) 2) プレゼンテーションに必要な知識(音声のポイント、ジェスチャーとしてのポイント、アイコンタクト等) 3) プレゼンテーションの構成(アウトラインの作り方、提示の仕方、見せ方) 4) プレゼンテーションの種類(誰に対して、どんな目標で、どんな場所で) ①ゼミでの発表、②学会発表、③学外での発表、④就職面接での自己 PR 5) プレゼンテーションの評価 (「注意深く聞き評価できる」と、結果的に自分のプレゼンテーション力が向上します) 6) より優れたプレゼンテーションから学ぶ(NHK 番組「スーパープレゼンテーション」を視聴して、優れたプレゼンテーションの特徴を具体的に理解し、自分自身のプレゼンにフィードバックする。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・「なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつか」 学生時代はもちろん、社会に出てからより重要とされる力が、「プレゼンテーション力」です。 どんなコンピュータも AI も変わることが出来ないのが、「人間が行うプレゼンテーション」なのです。 このプレゼンテーションを学ぶ必要があるのは; 1) どんな時代になっても、「人が人に対して行うプレゼンテーションに代替できるものがない」。 2) ゼミや研究会で、より良いプレゼンテーションができるようになると、自分が伝えたいことがより明確に相手に伝わり、相手の心や行動を「動かす」ことができる。 さらに、プレゼンを学ぶと次のことに結びつきます。 3) 就職活動においてプレゼンテーション能力が求められ、さらに会社での評価に直接つながる。 4) 良いプレゼンテーションが行えるようになると、自分の見せ方や他者への効果的な情報の説明、意見の提示、説得力ある提示、質疑応答がより良く出来るようになります。 すなわち、自分と他人との関係が強化され、自分の意見を説得力をもってわかりやすく、相手に伝えられるのです。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 〔中間目標〕 ・リスナーの人数に応じて、声の大きさ、アイコンタクト、姿勢、ジェスチャーにも気を配ってスピーチができる。 ・クラスメイト同士でも敬語表現を使って、フォーマル度の高い質疑応答や、話し方のスタイルを習得する。 ・他のプレゼンテーションに関して、詳細な点に関する適切な分析ができる聴き方をすることができ、それを言語化して相手に伝えられる。 ・人前で話すことの緊張感や苦手意識を軽減させる。 〔最終目標〕 ・付加価値の高いレジュメの書き方、効果的なパワーポイントの作成を行い、適切に改善していける。 ・プレゼンテーションの構成・内容を、リスナーとテーマに応じて工夫できる。リスナーに最も分かりやすく印象に残るプレゼンテーションの方法を、他の参考 DVD (スーパープレゼンテーション等)からも利用して実践できる。 ・プレゼンテーションのレベルアップのために、ユーモア、エピソード、非言語的要素(笑顔、ジェスチャー、声の調子)について、工夫して実践できる。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 各受講生の発表時間が不足することを回避し、また最も効果的なプレゼンテーションの練習になるクラスサイズにしている。 「繰り返しプレゼンテーションする」ことで、必ず全員が「絶対に上達し、自信がつく」。相互に評価しあうことで、分析力がつき、それが自分の発表の向上につながる。プレゼンテーションを苦手と思っている人こそ早目に受講してほしい。 特に、プレゼンテーションの内容が非常に面白くなってきた。学科を越えた相互情報交流の場になる。学期中2回のプレゼン、毎回出席して各発表者に対して書くコメントシートを提出することで、必ずプレゼンテーション力が向上する。 もちろん、自分の発表以外に必ず出席し、クラスメイトの発表を聞くという努力が上達の大前提である。		
〔教科書〕 授業時に適宜紹介する。		

〔指定図書〕 授業時に適宜紹介する。	
〔参考書〕 授業時に適宜紹介する。	
〔前提科目〕 なし	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) プレゼンテーション2回(口頭発表と作成資料)60% + 質疑応答や提出物(レポート):20% + 出席 20% = 100%	
〔評価の基準及びスケール〕 80～100 A 70～79 B 60～69 C 50～59 D 49以下 F	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 ＊実践的に学べるように、初回から徐々に必要な知識と能力を身に付けていきます。出席することが大前提です。 なぜなら、他の人がプレゼンテーションすることを聞く・質問する・コメントする、という作業がとても重要で効果的なプレゼンテーション力の養成に直結します。 ＊発表中は、そのプレゼンテーションに集中して、当然ですがスマホや私語は厳禁です。自分がスピーカーの立場になれば、わかることですが。 ＊発表に関する感想、質問の時間を取って、フォーマルな表現(敬語)を使うようにします。積極的に発言して下さい。	
〔実務経歴〕 海外大学での教育研究活動以外の実務経歴(現地の商工会議所など異文化との交渉にかかる実践経験)等を活かし、プレゼンテーションに関してグローバルな視点も入れて実践的に学びます。	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第1回	テーマ(何を学ぶか): コミュニケーションについて学ぶ必要 内 容: コミュニケーションの基礎知識。プレゼンテーションに関するニーズ分析。
第2回	テーマ(何を学ぶか): プレゼンテーションの目的 内 容: 様々なプレゼンテーションの種類、構成要素を知る。参考 DVD を視聴。
第3回	テーマ(何を学ぶか): コミュニケーションの基礎知識の復習(「対人コミュニケーションに関して」) 内 容: その中におけるプレゼンテーションの基本的知識、これからの目的
第4回	テーマ(何を学ぶか): プレゼンテーションに必要な材料(レジュメとは? パワーポイントとは?) 内 容: それぞれの特徴と作成方法を学ぶ

第5回	テーマ(何を学ぶか):第1回目のレジュメを用いたプレゼンテーション実践練習① 内 容: 担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。
第6回	テーマ(何を学ぶか):第1回目のレジュメを用いたプレゼンテーション実践練習② 内 容:担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。
第7回	テーマ(何を学ぶか):第1回目のレジュメを用いたプレゼンテーション実践練習③ 内 容:担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。
第8回	テーマ(何を学ぶか):第1回目のレジュメを用いたプレゼンテーション実践練習④ 内 容:担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。
第9回	テーマ(何を学ぶか):第1回目のレジュメを用いたプレゼンテーション実践練習⑤ 内 容:担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。 *これまでの講評とパワーポイント発表に関する注意点。 *参考となるDVD 視聴
第10回	テーマ(何を学ぶか):第2回目のパワーポイントを用いたプレゼンテーション実践練習① 内 容:担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。 *ここからのパワーポイントを用いたプレゼンテーションはアクティブラーニング室(202)で実施予定。 *スーパープレゼンテーションを途中で視聴予定(最低でも2本)
第11回	テーマ(何を学ぶか):第2回目のパワーポイントを用いたプレゼンテーション実践練習② 内 容:担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。
第12回	テーマ(何を学ぶか):第2回目のパワーポイントを用いたプレゼンテーション実践練習③ 内 容:担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。
第13回	テーマ(何を学ぶか):第2回目のパワーポイントを用いたプレゼンテーション実践練習④ 内 容:担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。
第14回	テーマ(何を学ぶか):第2回目のパワーポイントを用いたプレゼンテーション実践練習⑤ 内 容:担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。
第15回	全体を通して成果を挙げた点、さらなる今後の課題。 スーパープレゼンテーションを視聴して分析レポートとする期末課題説明。
評価	授業中に行う2回のプレゼンテーション、その資料作成、提出するコメントシート、授業内での質疑応答を総合して評価する。